

狼の恩返し

水戸市

昔、どんなに夜遅くても病人のもとに駆けつける親切で気さくな医者が水戸に住んでいました。ある日、山の中にある患者の家で治療に時間がかかり、帰りが遅くなってしまいました。

「夜の山道は狼や蛇が出るかもしれない。危険だから泊まっていった方がいい」と引き止められましたが、「留守中にどんな病人が頼ってくるか分からないからねえ。なあに、何か出たら針か灸でも据えてやるさ」と笑い飛ばして帰路につきました。

狼の遠吠えが聞こえるうす気味悪い山道を登っていき、峠にさしかかった辺りで休もうと腰を下ろすといつの間にか眠ってしまいました。

「うおーん、うおーん」という呻き声に目を覚ますと、そこにはのたうちまわる病気の狼の姿がありました。



医者は驚きましたが、自分が医者だと知ってやってきたのだと思い、優しく狼をさすり薬を飲ませてやりました。しばらくすると狼は具合が良くなったようで、こちらを気にするように何度も振り返りながら山へと帰って行きました。

しばらくして、ある夜ふけに山道を歩いていると、木立の中から五人ほどの追い剥ぎが現れ襲ってきました。このままでは人の命を助けるどころか自分の命が危ないと抵抗していると、どこからか黒い影が現れ、唸り声を立てながら男たちに飛びかかりました。影は、あの晩助けた狼だったのです。医者はおかげで無事に家に帰ることができました。

一つの出会いから生まれる恩は、人でも動物でも変わらないのかもしれませんが。一つ一つの縁を大切に生きていきたいものです。

〈出典〉茨城の民話第1集 日向野徳久編

「運ぶ」を支え、環境と未来をひらく

ISUZU 茨城いすゞ自動車株式会社

本社 / 〒310-0063 水戸市五軒町1-2-5 ☎029-225-1215(大代) <http://www.ibaraki-isuzu.co.jp>

いきいき茨城ゆめ国体2019  を応援しております。